

石川工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	国語ⅠⅠⅠ	
科目基礎情報							
科目番号	20013			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	環境都市工学科			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	『新 精選 現代文B』（明治書院）『新 精選 古典B 古文編』（明治書院）『新 精選 古典B 漢文編』（明治書院） 『新 精選 現代文B 学習課題ノート』（筑摩書房）『新 精選 古典B 古文編 学習課題ノート』（明治書院）『新 精選 古典B 漢文編 学習課題ノート』（明治書院） 『新 精選 古典B 漢文編 学習課題ノート』（明治書院）『国語常識ベーシック』（数研出版）『カラー版 新国語便覧』（第一学習社）						
担当教員	白石 佳和						
到達目標							
1. 近現代の評論・文芸作品を論理的に読解し、鑑賞できる。 2. 文法的知識を踏まえての古文・漢文読解ができ、鑑賞できる。 3. 漢字・手紙文・敬語等、実用的な国語知識を習得し、自由に運用することができる。 4. 読後感や随筆、論理的な文章を書くことができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	到達目標1	近現代の文章を読解し、その思想的背景や芸術的価値を理解できる。		近現代の文章を文意に沿って誤解なく読解することができる。		近現代の文章を、先入観などから正確に読み解くことができない。	
評価項目2	到達目標2	古典的文章について、文法・句法の理解を踏まえ読解し、その思想や芸術的価値を理解できる。		古典的文章について、文法・句法の理解を踏まえ口語訳できる。		古典的文章について、文法・句法の理解が不十分で正確に口語訳できない。	
評価項目3・4	到達目標3・4	漢字・敬語・手紙文の知識を運用でき、優れた思想を論理的文章で表現できる。		漢字・敬語・手紙文の知識を理解し、自分の思想を文章で表現できる。		漢字・敬語・手紙文の知識について理解が不足しており、自分の思想をつましく文章でまとめられない。	
学科の到達目標項目との関係							
本科学習目標 1 本科学習目標 4							
教育方法等							
概要	1・2年次の国語学習を踏まえ、（1）近現代の評論・文芸作品の鑑賞を通じた文章読解力養成、（2）古文・漢文の読解・鑑賞、（3）文章の作成（4）漢字を含む実用的な国語力の修得に取り組む。以上を通じて、技術者として必要な基礎学力を習得するとともに、自分の考えを正しく表現できる豊かな人間性を身につける。						
授業の進め方・方法	【授業の進め方】講義・グループ学習・小テスト・レポート・実演により、近現代および古典的文章の読解、表現学習を行う。 【事前事後学習など】日頃の予習復習や定期試験・小テスト前の学習を励行すること。夏休みの宿題レポート、小テスト（漢字）などを課す。 【関連科目】国語Ⅰ（1年次）、国語Ⅱ（2年次）、日本文学（4年次）						
注意点	教科書は2年次のものを引き続き使用する。紛失した者は各自生協で注文すること。また新たに使用する副教材は全員購入のこと。 【評価方法・基準】成績評価の基準として50点以上を合格とする 前期末：中間試験（50％）、期末試験（50％） 学年末：全定期試験（85％）、小テスト・課題（15％） 前期中間試験、前期末試験、後期中間試験、学年末試験を実施し、レポート提出、小テスト、実演評価を加味する。						
テスト							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	科学と世界観（評論1）			評論文について、論理の骨格を押さえながら議論の展開をたどることができる。	
		2週	科学と世界観（評論1）			評論文について、論理の骨格を押さえながら議論の展開をたどることができる。	
		3週	科学と世界観（評論1）			評論文を読み、さまざまな情報を整理・統合して、自分なりの解釈ができる。	
		4週	パプーシュカ（小説1）			小説について、自分や他の本、自分の周りの世界と関連づけることができる。	
		5週	パプーシュカ（小説1）			小説について、そのおもしろさを味わい、自分なりの解釈ができる。	
		6週	忠度の都落ち（「平家物語」）（古文1）			古文の文法や語彙を確認し、大体の内容と文化的背景が理解できる。	
		7週	忠度の都落ち（「平家物語」）（古文1）			古文の内容を深く味わい、現代や自分の周りの世界と関連づけることができる。	
		8週	「である」ことと「する」こと（評論2）			評論文について、具体例を手がかりに筆者独自の用語の意味を理解できる。	
	2ndQ	9週	「である」ことと「する」こと（評論2）			評論文について、論理の骨格を抑えながら議論の展開をたどることができる。	
		10週	「である」ことと「する」こと（評論2）			評論文について、社会の具体的事象につきあわせて筆者の主張を理解できる。	
		11週	二十億光年の孤独（詩）			詩について、比喩などの技法を押さえながら詩の意味を味わうことができる。	
		12週	二十億光年の孤独（詩）			詩について、自分や周りの世界と関連づけ、解釈について語り合うことができる。	
		13週	死友（漢文1）			漢文について、句法や語彙を理解し、大体の内容と文化的背景が理解できる。	

後期		14週	死友（漢文1）	漢文について、さまざまな情報を整理・統合して、自分なりの解釈ができる。
		15週	前期復習	前期学習を振り返り、自分の問題点を発見し解決できる。
		16週		
	3rdQ	1週	手紙の書き方（実用国語1）	実用的な国語知識を習得し、自由に運用することができる。
		2週	私の個人主義（文学的文章1）／	日本近代文学を代表する小説家の思想について、語句の意味と論理展開を正確に捉えて読解できる。
		3週	私の個人主義（文学的文章1）	日本近代文学を代表する小説家の思想について、語句の意味と論理展開を正確に捉えて読解できる。
		4週	私の個人主義（文学的文章1）	日本近代文学を代表する小説家の思想について、語句の意味と論理展開を正確に捉えて読解できる。
		5週	私の個人主義（文学的文章1）	日本近代文学を代表する小説家の思想について、語句の意味と論理展開を正確に捉えて読解できる。
		6週	グローバリゼーションの光と影（評論5）	評論文について、具体例に基づき専門的な用語・概念を理解できる。
		7週	グローバリゼーションの光と影（評論5）	評論文について、対立概念の相関関係を理解し、論理をたどりながら読解できる。
		8週	敬語（実用国語2）	実用的な国語知識を習得し、自由に運用することができる。
	4thQ	9週	「名づけ」の精神史（評論6）	評論文について、筆者固有の用語とその概念を、引用や具体例を手がかりに理解することができる。。
		10週	「名づけ」の精神史／（評論6）	評論文について、筆者固有の概念による現象分析の過程を、論理的にたどり理解することができる。
		11週	「名づけ」の精神史（評論6）	評論文について、具体例を手がかりに、筆者固有の概念の真価・発展の過程を論理的にたどり理解することができる。
		12週	芸術を楽しむ（評論7）	評論文について、感覚的表現を論理的にたどり理解することができる。
		13週	芸術を楽しむ（評論7）	評論文について、一般的観念を用いた筆者独自の論理展開を、具体例を手がかりに正確に読解できる。
		14週	芸術を楽しむ（評論7）	評論文について、筆者独自の論理展開と価値判断を正確に把握し、これに対する評価ができる。
		15週	後期復習	後期学習を振り返り、自分の問題点を発見し解決できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	

評価割合

	試験	小テスト・課題	合計
総合評価割合	85	15	100
基礎的能力	85	15	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0